

# 新版教科書、 こんなふうに使ってみたい

平成24年度版教科書には、多くの新しい教材が入りました。本連載「教師力講座」で、さまざまな実践を紹介している甲斐先生は、新教材でどのような授業をされるのでしょうか。そのアイデアをお聞きしました。



東京都港区立赤坂中学校教諭  
甲斐利恵子

「新教材を見ながら、『ここで子どもたちはどんな反応をするだろう』と想像すると、ワクワクしてくるんです」と甲斐先生。

## 『批評』の言葉をためる』 (三年)

「まず、新版教科書の中で、特に『いいな』と思われる新教材を教えてください。」

甲斐 三年一学期に位置づけられた『批評』の言葉をためる』は、とてもいいと思います。

私は、二年の後半ぐらいから、子どもたちに「批評」という心の動きが出てくると思います。例えば、二年三学期教材「走れメロス」で、メロスが走るのをやめてしまうシーンを学習したとき、「友を裏切るなんて許せない」という感想だけでなく、「人間ってそういうところがあるよね」、「人間の真実が描かれていると思う」という感想を述べる子どもがいます。

そういう「批評の芽生え」が出てくるのは、この時期なんですね。

ですから、三年一学期に批評について述べた教材があることは、とてもありがたい。単なる「好き・嫌い」を超えたところに、物事を理解する近道があるということが、とてもうまく文章にまとめられていると思います。少し大きいかもしませんが、中学三年で、この教材を学習したかどうかは、その後の人生にかかわってくると思いますよ(笑)。

それから、この教材は、「握手」(三年)の後に位置づけられています。私だったら、「握手」の前にこの教材を学習し、批評的な視点をもって、「握手」を読ませたいですね。ただ、「ルロイさんが好

## 『星の花が降るころに』 (二年)

「他の作品については、いかがですか。」

甲斐 「星の花が降るころに」(二年)も、いいですね。中学生の女の子の人間関係の描写がすばらしいと思います。子どもたちは、きつと感情移入してこの作品を読むことでしょう。しかし一方で、物語にどっぷり浸かることができるため、「夏実って、ひどいと思う」など、感情をぶつける議論になってしまうことも考えられます。

ですから、私は、この教材で「作品を語り合う」という授業をしたいと思っています。登場人物の心情だけを追っていくのではなく、少し距離を置いて、「この場面はインパクトがあるよね」、「このセリフが効いているね」などと、客観的に読ませて

ですから、この教材では、「おじいちゃん、おばあちゃん」をテーマに授業をしたい。昔の教科書に「わたしを作ったもの」という祖父と孫の心の交流を描いた作品が掲載されましたが、祖父を描いたすばらしい文学作品は世の中にたくさんあります。それらの作品も読ませて、十代の子どもたちと、年をとったおじいちゃんやおばあちゃんについて、語り合ってみてくださいね。

私は、祖父母の人物像を考えたときに、「年を重ねること」の理解があった方がいいと思っています。「この人は優しい人だ」と考えるのと同時に、その人の過ごししてきた歳月の流れに思いを寄せるような、そういう理解の筋道も会得させてはどうかと考えています。



「星の花が降るころに」(1年)  
「わたしは自分の心臓がどこにあるのかがはっきりわかった。どきどき鳴る胸をなだめるように一つ息を吸ってはくと、ぎこちなく足を踏み出した」  
「心情や情景の描写がとてもいいですね。これらの描写について、子どもたちと語り合ってみよう」と甲斐先生。

## 『蟬の声』 (三年)

「今回、文学教材では、書きおろしの作品を、各学年に位置づけました。先生の心に留まった作品はありましたか。」

甲斐 「蟬の声」(三年)は、読んだ後に涙がじわっとあふれました。個人的な話になりますが、私は、「祖父母と孫」という一世を超えた関係を描いた作品が、とても好きなんです。心の交流のあり方が独特で魅力的だと思います。

みたい。

子どもたちは、「人物設定」「ストーリー展開」「情景描写」などの言葉を教えると、すぐにその観点を獲得して、作品を読むことができます。ですから、そういう観点を示してあげてから、「『星の花が降るころに』を語り合おう」という単元を設定してみたいと思います。

## 『シカの落ち穂拾い』 (二年)

「説明文については、いかがですか。」

甲斐 読み応えのある魅力的な文章がたくさん掲載されました。私は特に「シカの落ち穂拾い」―フィールドノートの記録から(一年)がおもしろいと感じています。「観察のきっかけ」「観察からわかったこと」「仮説」……と、小見出しがついていて、物事を説明していくプロセスがわかりやすい。そういう文章のスタイルを学ぶのに最適な教材です。また、さまざまな図表が示されていて、図表の役割を考えさせるのにも、よい教材です。

この教材は、観察記録文ですよ。ですから、私は、子どもたちにも実際に観察をさせて、文章を書かせたいと思います。教材を一通り学習した後、「じゃあ、二週間

